

説明内容

1. 国の動き
2. 道の取組
 - ・ 基本的な考え方
 - ・ これまでの取組状況
 - ・ 今後の取組方針
3. 道の各種支援事業
4. 具体的な取組事例

(1) 機能集約・機能分化の事例

- 設置主体の統合など（一部事務組合・広域連合、新法人、等）
- 役割分担の明確化など

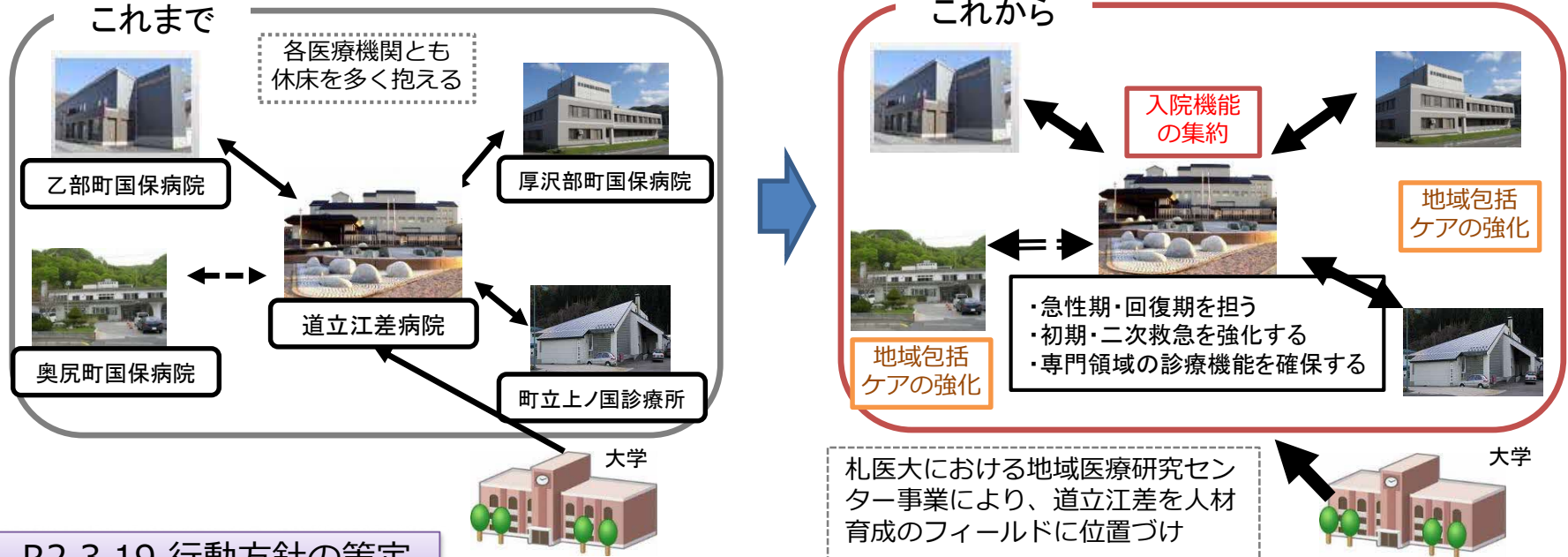
(2) 連携強化の事例

- 地域医療連携推進法人など

「南檜山圏域」の取組状況

令和2年9月15日
総医協地域医療専門委員会 資料
(一部追記)

問題意識：「今ここで、関係者が力を合わせ、将来を見据えた医療提供体制を作り上げていかなければ、人口減少が急速に進む南檜山の医療は守れない」



R2.3.19 行動方針の策定

- 「南檜山の患者は、できるだけ南檜山で診る」ことを指向し、圏域全体で目指すべき医療の方向性を示す、『**南檜山圏域の医療を確保するための行動方針**』を策定。
 - ポイント
 - ・入院機能をできるだけ江差病院に集約する。
 - ・各町立医療機関は、地域包括ケアの拠点としての機能を担う。
- 今後、本行動方針を踏まえ、令和3年度以降の新たな「公立病院改革プラン」及び「介護保険事業計画」を道及び各町において令和2年度中に策定し、限られた医療資源を効果的・効率的に活用しながら、関係者が力を合わせ、南檜山圏域全体で将来にわたり持続可能な医療提供体制の構築に向けて取り組む。
- また、本行動方針に基づく取組を関係者が一体となって進めるため、「**地域医療連携推進法人**」の設立を進める。(R2.9.1設立)
- さらに、国の「**重点支援区域**」への申請について、地域医療構想調整会議で合意。(R2.8.25選定)

- 南空知圏域では、公立・公的医療機関で施設の老朽化等が進み、建替えに向けた検討が進められている状況にあり、地域の議論を促進する必要があったことから、令和2年2月10日開催の調整会議において道から「論点提起」。
- 岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院を対象病院として、国に「重点支援区域」の申請をすることを調整会議で合意。(R2.8.25選定)



岩見沢市立総合病院

一般病床 365床
 ・急性期 365床
 (精神115床 感染症4床)

〔地域センター病院
 救急告示病院
 災害拠点病院
 周産期母子医療センター〕

急性期機能の
 維持・強化に
 向けた再編統合



(独)労働者健康安全機構
 北海道中央労災病院

一般病床 199床
 ・急性期 164床
 ・回復期 35床

〔地域がん診療病院
 救急告示病院〕

道からの論点提起

- 岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院では、人口減少下における急性期機能の維持・強化を図るため、機能集約化など再編統合に向けた議論を進めていただきたい。
- その他の病院では、岩見沢市内の議論の状況も踏まえながら、各病院においてどのような機能・規模が必要か、検討を進めていただきたい。

主な公立・公的病院の築年数

- ・岩見沢市立総合病院 (築35年) ※
- ・北海道中央労災病院 (築64年)
- ・市立美唄病院 (築53年) ※
- ・市立三笠総合病院 (築55年)
- ・栗山赤十字病院 (築40年) ※
- ・北海道せき損センター (築64年)

※建替を検討中

(R1年度時点)

「上川北部圏域」の取組状況

令和2年9月15日
 総医協地域医療専門委員会 資料
 (一部追記)

- 令和2年3月16日 名寄市病院事業と士別市病院事業が本年10月にも「地域医療連携推進法人」を設立する旨公表。(R2.9.1設立)
- 名寄市立総合病院に急性期医療を集約し、士別市立病院は主に回復期・慢性期の患者を担う機能分担により、効率的な医療提供体制を目指す。



名寄市立総合病院

一般病床 300床
 ・高度・急性期 252床
 ・回復期 40床 (地域包括ケア)
 ・休床 8床
 (精神55床 感染症4床)

地方・地域センター病院
 救命救急センター
 災害拠点病院
 周産期母子医療センター

2病院による
 意見交換を
 重ねる

地域医療連携
 推進法人を
 設立する
 旨表明



士別市立病院

一般病床 148床
 ・急性期 60床
 ・慢性期 88床
 (うち地域包括ケア病床27床)

救急告示病院
 在宅療養支援病院

地域医療連携推進法人の概要

- 名称(仮称) : 地域医療連携推進法人「上川北部医療連携推進機構」
- 参加団体 : 名寄市(名寄市立総合病院)、士別市(士別市立病院) ※今後拡大を検討
- 区域 : 上川北部圏域 ※今後拡大を検討
- 具体的な取組 : ①診療機能等の集約化・分担・強化、病床規模の適正化
 ②医療機器の共同利用
 ③医薬材料・薬品等の共同交渉・共同購入
 ④委託業務共同交渉
 (推進方針) ⑤連携業務の効率化(電子カルテ、その他システム等の将来的な連動)
 ⑥医療介護従事者の派遣体制の整備、人材育成、人事交流
 ⑦入院患者の在宅療養生活への円滑な移行の推進、病院間の連携強化
 ⑧働き方改革への対応

【統合再編の経過】

統合再編前

平成20年4月

平成30年4月

≪山形県医療機関≫

山形県立日本海病院
(528床、25科)

≪酒田市医療機関≫

酒田市立酒田病院
(400床、15科)

≪酒田市医療機関≫

酒田市立八幡病院
(46床)、5診療所

≪病院機構≫

日本海総合病院
(525床、25科)

酒田医療センター
(235床、7科)

≪酒田市医療機関≫

酒田市立八幡病院
(46床)、5診療所

≪病院機構≫

日本海総合病院
(646床、27科)

日本海酒田リハビリテーション病院
(114床、2科)

日本海八幡クリニック
(無床)、5診療所

【現在の医療提供体制】

病院名	日本海総合病院
診療科目	27診療科
職員数	984名(H30.4.1) ※非常勤含まず
病床数	646床

患者数	年間患者延数(一日あたり)(H29年度実績)
	入院 188,013人(515.1人)
	外来 345,801人(1,417.2人)
	病床利用率…79.7%
	平均在院日数…11.2日

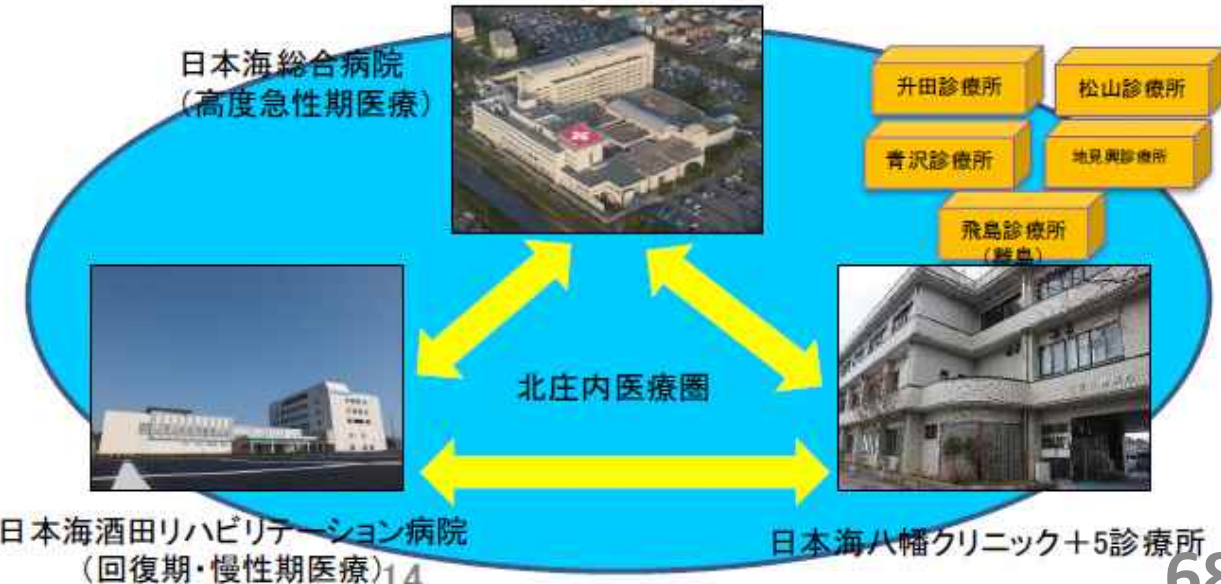
病院名	日本海酒田リハビリテーション病院
診療科目	2診療科
職員数	117名(H30.4.1) ※非常勤含まず
病床数	114床

患者数	年間患者延数(一日あたり)(H29年度実績)
	入院:36,962人(101.3人)
	外来:723人(3.0人)
	病床利用率…88.8%
	平均在院日数…62.0日

診療所名	日本海八幡クリニック等診療所
職員数	15名(H30.4.1) ※非常勤含まず
病床数	無床
診療科目	4診療科 訪問診療、訪問看護、遠隔診療



酒田市立看護専門学校

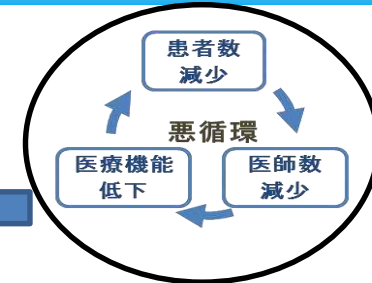


南和地域の広域医療提供体制の再構築

発想の契機

- ・町立大淀病院
- ・県立五條病院
- ・国保吉野病院

3つの公立病院(急性期)がそれぞれ医療を提供



連携内容

医療機能が低下している3つの公立病院を、1つの救急病院(急性期)と2つの地域医療センター(回復期・療養期)に役割分担し、医療提供体制を再構築



12市町村とともに、県が構成員として参加する全国でも珍しい一部事務組合で3病院の建設、改修、運営を実施

南和広域医療企業団

回復期・慢性期

吉野病院
改修 (H28年4月)



急性期・回復期
 南奈良総合医療センター
 新設 (H28年4月)

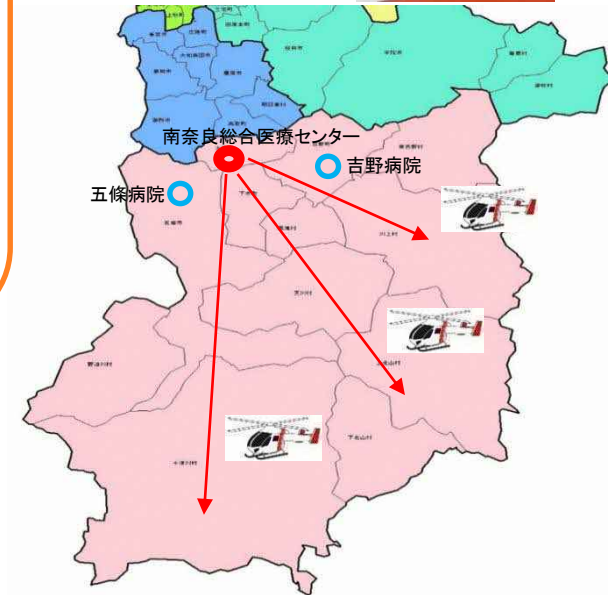
回復期・慢性期

五條病院
改修 (H29年4月)



連携

H29.3ドクターヘリ
 運用開始



連携の成果

- ・急性期から慢性期まで切れ目の無い医療提供体制を構築
- ・救急搬送受入数 計 5.7件→11.2件/日 (H28年度実績)
- ・病床利用率 65.0%→88.8% (H28年度実績)
- ・へき地診療所との連携強化
 (医療情報ネットワークで結び、病院の予約や検査結果の相互利用)

南和地域の医療提供体制の再構築、ドクターヘリの運用により、救急医療、へき地医療、災害医療等が充実

南和地域の病院再編による医師確保への効果

再編前

3病院の医師数
 (常勤換算)
 ※全て急性期病院

五條病院 25.7人
 大淀病院 13.0人
 吉野病院 9.7人
 (計 48.4人)

(参考)

南和医療圏
 人口 78,116人
 (2015年)
 医師数 107人
 (2014年)
 人口10万人あたり医師数
 137人
 (2014年)



再編後

3病院の医師数
 (H29.4.1現在)

(急性期中心)
 南奈良総合医療センター
 _____ 58.2人

(回復期・慢性期中心)
 吉野病院
 _____ 5.8人

五條病院
 _____ 3.0人
 (計 67.0人)

集約化のメリット

集約化による急性期機能の向上

3病院の医師数計
 48.4人 ⇒ 60.8人 (H28.4月時点)
 (1.26倍)
 に対し

救急搬送受け入れ件数
 2,086件 ⇒ 4,104件 (H28実績)
 (1.97倍)

症例集積や研修機能の向上による若手医師への魅力向上

- ✓ 専門研修基幹施設(1領域)
 総合診療科
- ✓ 専門研修連携施設(12領域)
 内科、外科、小児科、整形外科、
 救急科、脳神経外科、麻酔科、
 皮膚科、病理、形成外科
 放射線科、総合診療科
- ✓ 基幹型臨床研修指定病院の指定申請(H31年度の受入を目指す)

病院の役割の明確化による医局からの協力

- ✓ 医大医師配置センターから
 3病院への派遣人数 (H28.4派遣)
- 要請人数 52人(25診療科)
- 派遣人数 51人(25診療科)

24時間365日の救急体制の
 ために必要な医師数

スケールメリットによる診療科の増加・強化

- ✓ 再編後に開始した診療科
 - 産婦人科
 - 歯科口腔外科
 - 精神科
 - 救急科
- ✓ 小児科の機能強化
 - 南奈良総合医療センターに機能集約
 - 小児科救急輪番の充実
 輪番日以外にも宿直対応、
 ● 夕診、午後診も実施